

# 広島県感染症発生動向月報

[ 広島県感染症予防研究調査会 ]  
( 平成 30 年5月解析分 )

## 1 沖縄県等における「麻疹（はしか）」のアウトブレイクについて

ひろしまCDC

検索

今般、沖縄県をはじめとする全国各地で、麻疹患者の発生が報告されています。  
今後、県内で麻疹患者が発生した場合に備えて、県民、医療機関の皆様におかれては、次の点に留意いただきますようお願いいたします。

### ■ 医療機関の皆様へ ～保健所への速やかな連絡、院内感染防止対策～

- 麻疹患者が受診する医療機関は、内科・小児科・救急外来以外にも、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科などの可能性があります。  
発熱や発疹を呈する患者を診察した際は、麻疹の可能性を念頭に置き、海外渡航歴及び国内旅行歴を聴取し、麻疹の罹患歴及び予防接種歴を確認するなど、麻疹を意識した診療を行ってください。
- 麻疹と診断した場合には、速やかに、最寄りの保健所に届け出てください。  
また、保健所から依頼があった場合には、血液（EDTA採血管）、咽頭拭い液及び尿の検体を採取してください。
- 患者（疑い含む。）は個室管理を行う等、感染力の強さを踏まえた院内感染対策を実施してください。なお、事務職・医療職を含めて、職員の「抗体価に基づく麻疹罹患歴」及び「記録に基づく麻疹含有ワクチンの接種歴」を確認し、必要に応じて対応をお願いします。  
※麻疹抗体価・・・医療従事者は、EIA法（IgG）16以上で基準を満たします。  
（日本環境感染学会HP「医療関係者のためのワクチンガイドライン 第2版」）
- 麻疹含有ワクチンの緊急接種に当たっては、接種不適合者（免疫不全者、妊婦等）に接種することがないように、十分な配慮を行い、予診・診察の上、接種が可能と判断したものに対して、接種を実施してください。

### ■ 県民の皆様へ ～受診前の事前連絡～

- 麻疹は、非常に感染力が強い感染症です。海外や国内の患者発生地から帰られて2週間以内に、麻疹が疑われる症状が見られた場合には、次の事項に留意して、速やかに医療機関を受診してください。
  - ・必ず、受診前に医療機関に電話連絡し、麻疹の疑いがあることを伝えた上で、医療機関の指示に従って受診してください。
  - ・受診の際には、公共交通機関の利用は控え、できるだけ他の人との接触を避けてください。
- なお、麻疹に関するご相談は、最寄りの保健所までお願いします。

### 「麻疹」について

潜伏期間：通常 10～12 日（7 日～21 日）

感染力のある期間：発熱の前日から、解熱後 3 日程度

感染経路：空気感染、飛沫感染、接触感染

予防方法：ワクチンの 2 回接種が有効

症状：発熱や咳、鼻水といった風邪様症状。

その後 2～3 日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹

合併症等：肺炎、中耳炎。患者 1,000 人に 1 人の割合で脳炎。

麻疹ウイルスに感染後 7～10 年を経て、特に学童期に亜急性硬化性全脳炎（SSPE）を発症することがある。



(提供) みやけ内科・循環器科

## 2 疾患別定点情報 【速報値】

### (1) 定点把握(週報)五類感染症

平成30年4月分(平成30年4月2日～平成30年5月6日:5週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	512	0.89	2.52	↓	10	ヘルパンギーナ	44	0.12	0.07	↑
2	RSウイルス感染症	93	0.26	0.21	↘	11	流行性耳下腺炎	33	0.09	0.46	↗
3	咽頭結膜熱	162	0.45	0.55	↗	12	急性出血性結膜炎	3	0.03	0.01	
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	617	1.71	2.04	↘	13	流行性角結膜炎	108	1.14	0.69	↗
5	感染性胃腸炎	2,938	8.16	7.78	↘	14	細菌性髄膜炎	3	0.03	0.01	
6	水痘	82	0.23	0.52	↗	15	無菌性髄膜炎	2	0.02	0.01	
7	手足口病	39	0.11	0.44	↗	16	マイコプラズマ肺炎	4	0.04	0.14	
8	伝染性紅斑	3	0.01	0.16		17	クラミジア肺炎	1	0.01	0.01	
9	突発性発しん	132	0.37	0.50	↗	18	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	120	1.14	—	↘

### (2) 定点把握(月報)五類感染症

平成30年4月分(4月1日～4月30日)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
19	性器クラミジア感染症	45	1.96	2.01	↘	23	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	71	3.38	4.05	→
20	性器ヘルペスウイルス感染症	24	1.04	0.68	↗	24	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	9	0.43	0.65	
21	尖圭コンジローマ	16	0.70	0.57	↗	25	薬剤耐性緑膿菌感染症	2	0.10	0.01	
22	淋菌感染症	9	0.39	0.70	↘						

※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当たり)

※ 報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

※ 感染性胃腸炎(ロタウイルス)は、平成25年10月14日から届出対象となったため、過去5年平均データはありません。

発生記号(前月と比較)

**急増減疾患!! (定点当たり前月比2倍以上増減)**  
 ○急増疾患 ヘルパンギーナ(0.02 → 0.12)  
 ○急減疾患 インフルエンザ(6.46 → 0.89)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象18疾患, 月報対象7疾患)について、県内178の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～11	12, 13	19～22	14～18, 23～25	
定点数	43	72	19	23	21	178

## 3 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況 【速報値】

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	31	結核(31)〔西部保健所(4), 西部東保健所(4), 東部保健所(3), 広島市保健所(9), 呉市保健所(4), 福山市保健所(7)〕
三類	3	細菌性赤痢(1)〔西部東保健所(1)〕, 腸管出血性大腸菌感染症(2)〔広島市保健所(1), 呉市保健所(1)〕
四類	6	E型肝炎(1)〔北部保健所(1)〕, つつが虫病(1)〔北部保健所(1)〕, レジオネラ症(1)〔東部保健所(1)〕, 重症熱性血小板減少症候群(1)〔北部保健所(1)〕, 日本紅斑熱(2)〔東部保健所(1), 福山市保健所(1)〕
五類	41	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(4)〔東部保健所(1), 北部保健所(1), 呉市保健所(2)〕, バンコマイシン耐性球菌感染症(1)〔広島市保健所(1)〕, 後天性免疫不全症候群(1)〔福山市保健所(1)〕, 侵襲性肺炎球菌感染症(5)〔広島市保健所(2), 呉市保健所(2), 福山市保健所(1)〕, 梅毒(11)〔広島市保健所(8), 福山市保健所(3)〕, 百日咳(15)〔西部東保健所(5), 広島市保健所(5), 呉市保健所(1), 福山市保健所(4)〕, 風しん(4)〔広島市保健所(4)〕